

報道関係者各位

■ YCC ヨコハマ創造都市センターよりお知らせ ■

- ・ YCC Temporary 北澤潤 “ネイバース・ランド” 開催
- ・ RED ROOM #3 開催

YCC Temporary 北澤潤 “ネイバース・ランド” 開催



YCC ヨコハマ創造都市センターでは、昨年度よりスタートしたYCC独自のアートプログラム「YCC Temporary」の第五弾として、若手美術家 北澤潤による展覧会「YCC Temporary 北澤潤 “ネイバース・ランド”」を開催いたします。北澤潤は「コミュニティ・スペシフィック」をテーマに国内外で活動しているアーティストであり、米経済誌フォーブスの「30 Under 30 Asia 2016」アート部門にも選出されています。

“NEIGHBOR’S LAND”は、アーティストの北澤潤が日本と東南アジアをはじめとする海外を行き来する生活の中で感じた個人的な違和感を出発点に、現代日本の都市のなかで国家や文化のはざまを生きる人々との協働をとおして、わたしたちの日常に隣り合いながら存在する多様な「隣人たちの国」を都市空間の内部に構築していき、日本でありながら日本でないどこか、“NEIGHBOR’S LAND”をつくるプロジェクトです。

横浜在住の外国人の方々からプロジェクトメンバー「ネイバーズ」を募り、それぞれがつながる外国の生活風景や日常の営みを形にしていくとともに、すでにこの街に存在している外国の文化を収集することで、YCCの内部空間を“NEIGHBOR’S LAND”へと変貌させていきます。このプロジェクトには、10カ国を超える横浜在住の外国の方々「ネイバーズ」として参加して下さっており、アーティストである北澤潤と、「ネイバーズ」が、複数回にわたるミーティングやディスカッションを重ね、実現されるものです。会場づくりだけでなく、会期中の運営やイベント実施にも、「ネイバーズ」が参加して下さる予定です。

“NEIGHBOR’S LAND”は、外国人の方々の出身国の文化、生活、慣習などを知り、体験し、人々が出会うことのできる、多様な人々やモノ、イベントが集まった街のような構成となり、各参加者の出身国での生活・記憶をもとに作られるブースに加え、モノづくり講座、語学講座、料理教室、各国の飲料・料理販売、物品販売など、さまざまなイベントを実施予定です。出身国や国籍に関わらず、同じ横浜に住む「隣人」として、人々の間でさまざまな交流が生まれることを目指しています。

世界のどこにも存在しない“NEIGHBOR’S LAND”がYCCの展示空間に出現し、多様な国の人々や文化に出会い、体験できる貴重な機会となりますので、是非、この機会にご来場ください。



“NEIGHBOR’S LAND” 会場イメージ図

<開催概要>

YCC Temporary 北澤潤 “ネイバース・ランド”

※複数のイベントから構成されるプロジェクトのため、開場日程・時間に変則的です。ご注意ください。

会期： 2018/4/27(金)～6/10(日)の木・金・土・日曜・祝日のみ開場(月・火・水曜は休み)。  
※ゴールデンウィーク期間中4/30(月)～5/6(日)は休まず開場。

※会期中は、「ネイバース」によるモノづくり講座、語学講座、料理教室、各国の飲料・料理販売、物品販売など、さまざまなイベントを実施予定です。イベントスケジュールは、決定し次第、特設サイトにて公表いたします。

時間： 木・金 15:00～20:00  
土・日・祝 12:00～20:00

※ゴールデンウィーク期間中4/30(月)～5/6(日)は以下の時間で開場します。

4/30(月・祝)	12:00～20:00	5/4(金・祝)	12:00～20:00
5/1(火)	15:00～20:00	5/5(土・祝)	12:00～20:00
5/2(水)	15:00～20:00	5/6(日)	12:00～20:00
5/3(木・祝)	12:00～20:00		

会場： YCC ヨコハマ創造都市センター 3階  
入場： 500円

※1回のお支払いで会期中、何度でも入場可能なパスポート制。  
※高校生以下入場無料、要学生証提示。  
※会場内で実施されるイベントへの参加費や物品の購入には別途料金がかかります。

特設サイト：<http://yokohamacc.org/jk/>

主催： YCC ヨコハマ創造都市センター(特定非営利活動法人 YCC)  
助成： 芸術文化振興基金  
後援： 横浜市文化観光局

“ネイバース・ランド” ディレクション： 北澤潤(美術家)  
“ネイバース・ランド” 参画・謝辞： 横浜在住の外国人の方々(ネイバース)  
企画： 長田哲征(YCC / offsociety inc.)  
コーディネーション： 長田哲征、岩澤夏帆(YCC)  
協力： 能作淳平(建築家、会場デザイン協力)  
広瀬義巳(スタジオ・ステップ、会場施工)  
樋口道彦(植栽協力)  
DM デザイン： 加藤賢策(LABORATORIES)

<オープニングレセプションパーティーのご案内>

※当日の取材については別途ご相談ください。

日時： 2018年4月27日(金) 18:00～20:00  
会場： YCC ヨコハマ創造都市センター 1階



## &lt;アーティスト&gt;

## 北澤潤 Jun Kitazawa

美術家、北澤潤八雲事務所代表。1988年東京都生まれ、同在住。2007年に父の出身地である佐渡島と新潟をつなぐ客船「おけさ丸」を舞台に初めてのプロジェクトを実施。以来、国内外約30の地域に関わりながら、中長期的なフィールドワークを経て多様な人びとと協働し、日常に問いを投げかける場を共同体の内部に生み出す「コミュニティ・スペシフィック」を志向したアートプロジェクトを実践しつづけている。2010年には「北澤潤八雲事務所」を設立し、行政機関、教育機関、医療機関、企業、地域団体、NPOなどとパートナーシップを結びながら直接的に社会と関わり、自立的かつ持続的なプロジェクトの可能性を模索してきた。2016年から2017年にかけて国際交流基金アジアセンターのフェローシッププログラムで1年間インドネシアに滞在。以降、日本とインドネシアを行き来しながら活動を展開している。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。米経済誌フォーブス「30 Under 30 Asia 2016」アート部門選出。

**YCC Temporary**

2017年4月よりスタートしたYCCによる自主企画アートプログラムシリーズ。毎回「一組のアーティスト」に限定した個展形式で現代のアーティストに焦点を当てた美術展覧会等を開催。

## RED ROOM #3 開催



過去開催、RED ROOM #2 の様子

YCC ヨコハマ創造都市センターでは、2018年5月11日(金)・12日(土)の2日間、アート・ラウンジ「RED ROOM #3」を開催いたします。2ヶ月に1度、2日間限定で「赤い部屋」として出現する「RED ROOM」は、1929年建造のYCCの石造エントランス部分を会場に展開されるアート・ラウンジです。2017年7月・10月と過去2回開催しており、多くの方にお越しいただき、好評を博したプログラムです。「RED ROOM #3」では、高橋匡太+川口怜子による建物ライトアップおよび「赤い部屋」のアートワーク、2名のドラッグ・クイーン「マダム・レッド」と「レッド・ガール」によるパフォーマンス、時空を旅する音楽家LaLa-山中透による「RED ROOM」のために作曲された新曲およびDJプレイ、エッセイストの出口雨によるドラマトルグなど、アート盛りだくさんのプログラムに加え、バーカウンターでは「RED ROOM」オリジナルのアルコール・ドリンク類(有料)を提供いたします。

**「RED ROOM」  
について**

「RED ROOM」は1929年に建造のYCC ヨコハマ創造都市センターの石造エントランス部分に「赤い部屋」が現れ、開催されるアート・ラウンジです。「RED ROOM」という名前が表すように、照明やインテリアなどのすべてが「レッド」をテーマに構成され、バーカウンターからは酒類を含むドリンク(有料)が提供されます。

## &lt;開催概要&gt;

**RED ROOM #3**

日時: 2018年5月11日(金)・12日(土)

時間: 19:00-23:00(予定)

会場: YCC ヨコハマ創造都市センター 1階エントランス

入場: 無料(ドリンク1杯オーダー・ノーチャージ)

\*開催中、ドラッグ・クイーンによるパフォーマンスを予定

アートワーク: 高橋匡太+川口怜子

パフォーマンス: マダム・レッド(フランソワ・アルデンテ)、

レッド・ガール(チャンジャ・セモリナ)

ミュージック&amp;DJ: 時空を旅する音楽家(LaLa - 山中透)

ドラマトゥルグ: 出口雨

主催: YCC ヨコハマ創造都市センター(特定非営利活動法人 YCC)

後援: 横浜市文化観光局

特設サイト: <http://yokohamacc.org/redroom/>

※過去の開催内容をご覧ください。RED ROOM #3の内容は後日更新予定。

## アーティスト

高橋匡太 Kyota Takahashi

1970年京都生まれ。1995年京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館、など大規模な建築物のライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を創り出す。多くの人とともに作る「夢のたねプロジェクト」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」、「Glow with City Project」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。1995年キリンコンテンポラリーアワード'95最優秀作品賞、2005年京都府美術工芸新鋭選抜展 2005最優秀賞、五島記念文化賞美術新人賞、グッドデザインアワード 2005(環境デザイン部門)、2008年京都府文化賞奨励賞、2010年京都市芸術新人賞、DSA日本空間デザイン賞 2015優秀賞、などを受賞。



川口怜子 Reiko Kawaguchi

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形工学専攻修士課程修了。2001年より美術家・高橋匡太のアートワークに参加。現在、同作家の作品制作における空間設計・色彩設計・演出助手など照明に関わる部分を担当。ソロワークとして、「forest; snow」(金津創作の森10周年記念ライトアップ、2006年)、「Emitting Scratch」(徳島LEDアートフェスティバル、2013年)を制作・発表。

お問合せ: YCC ヨコハマ創造都市センター(特定非営利活動法人 YCC)

〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1

TEL 045-307-5305 FAX 045-307-5322

MAIL [press@yokohamacc.org](mailto:press@yokohamacc.org) / URL <http://yokohamacc.org>



パフォーマー



フランソワ・アルデンテ Fransoir AL Dente

(ドラァグ・クイーン／パフォーマー)

1990年代半ば、姉マルゲリータ・アルデンテとともに“ブルーデーガールズ”でクラブデビュー。後にソロとなる。前衛色の濃いアンダーグラウンドなショーやメタル調のハードなステージングアクトから、いわゆるディーヴァ系の華やかな王道レビューまでそのスキルは幅広く、また、ジェンダーの枠にとらわれず男女両方の性を演じることができる、数少ないマルチパフォーマー。国内外の現代美術およびコンテンポラリーアートとの結び付きも強く、その方面でも精力的に活動している。横浜では、「スマートイルミネーション横浜 2015」のたてもものおしほい「塔(クイーン)は歌う」で初舞台。現在、京都を拠点に、GODA 企画「フランソワ・アルデンテの変身ワークショップ」や、来年1月の初演出作品など。美醜にとらわれず

従来の型にはまらないそのメイクアップ技法、身長約190cmの美脚に一部の人々から熱い支持を得ている。

チャンジャ・セモリナ Chanja Semolina

(ドラァグ・クイーン)

2016年デビュー。アルデンテ家のあとを追う身長約2メートルの美女。未知数を最大限に秘めた大型新人(かもしれない)。コンテンポラリーアートの周辺では、アーティストを支える技術者、デザイナーとしても定評がある。



Photo: Kazuma Makino

ミュージシャン



ララ - 山中透 LaLa - Toru Yamanaka

(DJ/作曲家/レコーディング・エンジニア/プロデューサー)

学生時代、京都を中心に実験音楽系のフィールドで活動し、マルチ・メディア・パフォーマンス・グループ「dumb type」の立ち上げに参加。創世記のメンバーとして、音楽と音響を担当。1989年よりクラブイベント「DIAMONDS ARE FOREVER」をシモーヌ深雪、故グローリアスと共にプロデュース。大阪、東京、名古屋、札幌、博多、新潟、仙台、N.Y.、マドリッド、シドニー、パリ、ベルリンなど、世界各地のクラブで開催する。様々な分野の人々とも積極的にコラボレーションを行い、また勢力的にワークショップもこなす。近年の主な音楽監督の履歴としては、アジアを代表する演出家オン・ケンセンのカンパニー「シアターワークス」を軸に、BuBu、Monochrome Circus、じゅんじゅん Science、MuDA など、アートからダンス/パフォーマンスまで多岐に渡る。自身で立ち上げた foil-records の作品として、CD+DVD アルバム「flo+out (2007年)」、舞台音楽のリミックス作品集「Sextant (2012年)」などがある。

スクリプト

出口 雨 Ame Deguchi (エッセイスト)

夏目漱石「夢十夜」や内田百閒「東京物語」をこよなく愛している。そこにはない空間や失われた時間に興味がある。過去のアーティスト活動から時をおいて、近年、文字によるクリエイションに目覚め、エッセイやパフォーマンス作品の脚本も手がけている。

